



やまだ いっこう

平成29年5月14日発行 Vol.11

山田一功県政レポート

発行者 山梨県議会議員 山田一功 甲斐市宇津谷1008 Tel:055-226-8111
http://www.yamada-ikko.info/ E-mail:ikkoyama@green.ocn.ne.jp

平成29年度も「美しい甲斐・山梨」づくりのため、一生懸命頑張ります!!

平成29年2月28日(火)、定例県議会にて、一般質問をさせていただきました内容を中心に報告させていただきます。質問の様子がTV録画でご覧いただけます。(上記ホームページへ)

山田一功



2月定例会にて質問中



発言を求める山田一功



書籍を片手に



議場全体

平成29年度2月議会議決項目等

●知事提出議案

- 山梨県市町村振興資金条例中改正の件
- 山梨県児童福祉施設に関する基準を定める条例中改正の件
- 平成29年度山梨県一般会計予算
- 平成29年度山梨県恩賜県有財産特別会計予算
- 平成29年度山梨県災害救助基金特別会計予算
- 平成29年度山梨県母子父子寡婦福祉資金特別会計予算
- 平成28年度山梨県一般会計補正予算
- 山梨県指定通所支援の事業等に関する基準等を定める条例中改正の件 他

●議員提出案件

- 山梨県議会基本条例制定の件
- 介護福祉士の養成教育に対する支援を求める意見書
- 参議院議員選挙における合区の解消を求める意見書
- 高齢運転者による交通事故防止対策の推進を求める意見書 他



2月28日議会傍聴いただいた皆様

2月定例県議会(2/17~3/23)一般質問要旨

Q 県産新魚の開発など水産業振興について

- 水産業振興の考え方について
A.遊漁者数の増大やブランド魚の生産と消費の拡大や、養殖技術の指導をはじめ、新たな県産ブランド魚の開発と普及、海水魚の陸上養殖の推進等により、県産養殖魚の生産拡大を支援しその魅力を積極的にPRし需要の拡大を図る。
- 新魚を開発した経緯について
A.本県水産業の活性化を図るためには、魅力ある県独自のブランド魚の開発が必要であることから、平成19年度から県水産技術センターが、付加価値の高い新魚の開発にチャレンジし、キングサーモンとニジマスの掛け合わせに日本で初めて成功し、先般、水産庁から養殖魚として適合する旨の確認がなされた。
- 新魚の生産体制の確立とブランド化への取り組みについて
A.県内養殖業者に種苗を提供し養殖技術の現地実証を行い、東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年の初出荷を目指す。更に、高級魚としてのブランド化に向け、魅力を多くの方々知ってもらい、養殖業者等と連携し販売戦略を構築していく。
- 陸上養殖の取り組み状況と今後の展開について
A.トラフグ生産組織の設立や、養殖施設整備を支援してきており、本年4月から養殖が始まる見込みとなった。陸上養殖は、観光振興にも繋がることから、今後とも陸上養殖協議会と連携し積極的に推進する。

Q リニア環境未来都市について

- リニア環境未来都市の基本的な考え方について
A.本県の魅力を広く情報発信する中で、多くの人や企業が国内外から集まり、新たな交流が更なる交流に繋がる好循環を繰り返しながら、将来にわたり成長を続ける都市を目指す。
- リニア駅周辺及び近郊の取り組み展開について
A.交通の結節点として必要な機能を整備するとともに、山梨らしい駅前空間を創出する。駅近郊では、リニア通勤や二地域居住などを促進するとともに、未来のものづくり産業の集積を目指すなど、市町と連携を図りながら取り組みを進める。
- リニア開業効果を全県に波及させる取り組みについて
A.リニア駅と県内各地を結ぶアクセス30分圏域の拡大に向けた道路整備を計画的に進めるとともに、交通基盤の整備に取り組んでいく。また、県民生活にもたらす効果やその後の本県の姿をわかりやすく発信しながら取り組む。

Q 海外におけるトップセールスの展開について

- 明年度の台湾トップセールスの取り組みについて
A.観光物産展を現地で開催し魅力を強力に発信する。特に評価の高いモモは、検疫条件緩和等の意見交換を実施する。また、人気の高いサイクリングツアーの誘致を進めるセールス活動を行うとともに、自治体を訪れ交流促進に向けた関係強化を図る。
- 明年度ベトナムをターゲットとした目的、取り組み内容について
A.市場開拓の余地があることから、本県として初めて現地を訪れ、やまなし魅力説明会を開催しPRする。また、青少年の訪日旅行の促進などについて意見交換を行うほか、各界各層のキーパーソンとの関係を構築し、誘客促進と販路拡大を図る。
- トップセールス後のフォローアップへの取り組みについて
A.フルーツフェアや県産食材フェアを継続実施するとともに、新たに観光物産展を実施する。有力経済誌を招請しタイ経済界の視察旅行などの誘致に繋げる。インドネシアではトラベルフェアに出展し、マレーシアでは観光物産展を継続実施するなど、トップセールスで構築した関係をもとに、経済の活性化に繋がるよう努める。

Q 新たな蓄電システムの取り組みについて

- 改良型ニッケル水素電池を用いた蓄電システムに取り組み理由について
A.現在フライホイール蓄電システムやパワー・ツー・ガスシステムの研究開発などに取り組んでいる。一方、改良型ニッケル水素蓄電システムは、汎用性が高く大幅な性能の向上が見込まれ、機器の実用化を通じ県内産業の活性化が期待できるため試験研究に着手することとした。
- 改良型ニッケル水素電池の優位性について
A.改良型ニッケル水素蓄電池は、他の蓄電池に比べ連続かつ高速での充放電ができ、寿命も長いなどの特性がある上、改良により充放電回数や大規模化が飛躍的に向上することが見込まれるなど、将来性の高い分野であると考えている。
- 改良型ニッケル水素蓄電システムの利用分野の想定について
A.大型の電気設備を有する工場や、短時間に大電力を消費する病院などにおいて、停電時に使用する自家発電設備に代わるバックアップ電源や、太陽光発電施設との併用により、省エネルギー設備としての活用が見込まれる。
- 改良型ニッケル水素蓄電システムの今後の普及に向けた取り組みについて
A.充放電能力や耐久性に関する機能検証を行っており、製品化に向けた課題検討なども行っていく。エクセルギー・パワー・システムズ株式会社とは、共同研究に当たり、製造段階に至った折には県内の工場で生産することの取り決めを交わしている。

※山田一功オフィシャルHPから質問の様子がTV録画でご覧いただけます。

